



ヤマハ発動機株式会社
第84期 中間報告書

2018年1月1日から2018年6月30日まで





株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
第84期第2四半期連結累計期間（以下、当上半期）の事業内容をご報告申し上げます。

当上半期の売上高は8,513億円（前年同期比233億円・2.8%増加）、営業利益は822億円（同1億円・0.1%増加）、経常利益は793億円（同42億円・5.0%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は570億円（同38億円・6.3%減少）となりました。なお、当上半期の為替換算レートは米ドル109円（前年同期比3円の円高）、ユーロ132円（同10円の円安）でした。

売上高は、新興国二輪車事業及びマリン事業、並びに産業用機械・ロボット事業の販売好調により、増加しました。営業利益は、売上高の増加に加え、新興国二輪車事業や産業用機械・ロボット事業の商品ミックスの改善が、先進国二輪車事業の減益を吸収して前年並みとなりました。経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は為替影響により減少しました。

当社は、株主の皆様利益向上を重要な経営課題と位置付け、企業価値の向上に努めております。

配当につきましては、「安定的財務基盤を維持・強化し、新しい成長投資・株主還元を増やす」ことを主眼に、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を配当性向の目安としております。今期の配当につきましては、2018年12月期通期連結業績予想を当初より変更していないことを踏まえ、年間配当予想は1株当たり90円とさせていただきます、中間配当は1株当たり45円とさせていただきます。

なお、この度の二輪車完成検査時の排出ガス抜取検査に関する不適切処理では、株主の皆様にご心配をお掛けすることとなりましたことを深くお詫び申し上げます。このような事案が発生することがないよう再発防止に努めてまいります。

株主の皆様には、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年9月
代表取締役社長 日高 祥博

セグメント別の業績

● 二輪車 売上高5,154億円 営業利益312億円

新興国では、インドネシア、インド、フィリピンなどにおける販売台数の増加や商品ミックスの改善などにより、増収・増益となりました。先進国では、欧州での販売台数の減少などにより、減収・減益となりました。二輪車全体では増収・減益となりました。

● マリン 売上高1,887億円 営業利益382億円

北米でのウォータービークルとスポーツボートの販売台数が増加し、増収・増益となりました。

● 特機 売上高713億円 営業利益11億円

四輪バギー、ゴルフカーの販売台数が増加し、増収・増益となりました。

● 産業用機械・ロボット 売上高353億円 営業利益88億円

サーフェスマウンターの商品ミックスの改善などにより、増収・増益となりました。

● その他 売上高406億円 営業利益29億円

電動アシスト自転車の商品ミックスの悪化などにより、減収・減益となりました。

連結業績予想について

マリン事業、新興国二輪車事業、産業用機械・ロボット事業の増収・増益要因が、先進国二輪車事業の減収・減益要因を吸収する見通しであることから、通期の連結業績予想は当初予想から変更していません。

2018年12月期連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	換算レート (\$/€)	年間配当金
当初予想 2018年2月	17,000億円	1,500億円	1,550億円	1,030億円	\$105円/€130円	90円
(参考) 前年実績	16,701億円	1,498億円	1,548億円	1,016億円	\$112円/€127円	88円

成長市場のプレミアムクラスに 125ccスクーター「LEXi (レキシィ)」投入

インドネシアのスクーター市場は年間480万台規模で推移しており、価格帯によりベーシック、スタンダード、プレミアムと3クラスに大別している中で、個人所得の上昇によりプレミアムクラスの需要が拡大、今後もさらなる成長が見込まれています。「LEXi」は上品なスタイルとワンランク上の高級感を感じさせるボディサイズ、高性能エンジン、そしてさらなる便利機能などで、このクラスのニーズに応えます。当モデルは2018年4月より発売しております。



当社最大馬力モデル 船外機「F425A / FL425A*」

当社のラインナップの中では最大馬力となる425馬力の4ストローク船外機で、2018年夏より北米において発売を開始しました。燃料を高圧、かつ高精度に直接噴霧する「ダイレクトフューエルインジェクション」を4ストローク船外機として初めて採用しました。燃焼効率を高め、卓越したトルクとパワーを発揮し、ボートに最高レベルの加速性能とスピード性能を提供します。当モデルは、欧州、オーストラリア、日本などの主要市場において、順次、発売する予定です。

*FL425Aはプロペラ左回転のカウンターローテーション仕様のモデルです。



2人乗りレクリエーショナルモデル 「Wolverine X2 (ウルヴァリン エックスツー)」

北米を中心としてラインナップを拡充中のROV*の新製品で2018年6月より発売を始めました。オフロード走行やハンティングを主目的に、優れた走行性能、快適性、信頼性、実用性を高次元でバランスした2人乗りモデルです。当社は2013年の第1弾モデル投入以降、現在までラインナップを拡充しプレゼンスを高めています。

*ROV : Recreational Off-highway Vehicle

2018鈴鹿8耐決勝、4連覇達成！

2018年7月29日、「FIM世界耐久選手権最終戦鈴鹿8時間耐久ロードレース第41回大会」の決勝レースが三重県の鈴鹿サーキットで行われ、YAMAHA FACTORY RACING TEAM (中須賀克行選手、アレックス・ローズ選手、マイケル・ファン・デル・マーク選手) が優勝しました。今回の優勝は鈴鹿8耐において4連覇、通算8回目の優勝獲得となります。中須賀克行選手は前日の転倒で負傷し決勝を走れませんでした。アレックス・ローズ選手とマイケル・ファン・デル・マーク選手が199周を走破しました。優勝マシンである「YZF-R1」は1998年に誕生し、20周年に華を添えることができました。



ドイツとインドでデザイン賞を受賞

スポーツコミューター「TMAX530 DX」とスクーター「XMAX300」が、世界的に権威あるデザイン賞「Red Dot Award: プロダクトデザイン2018」を受賞しました。同賞の受賞は2012年から7年連続となります。また、「第45回東京モーターショー2017」などに出品し人気を博した「MOTORiD (モトロイド)」が、同賞「Red Dot Award: デザインコンセプト2018」において最高賞である“Best of the Best”に選ばれ、さらにその中からトップ3がノミネートされる「Luminary award」の候補に初めて選出されました。

「Red Dot Award」は、ドイツの「Design Zentrum Nordrhein Westfalen」主催による世界的に格式の高いデザイン賞で、毎年卓越したデザイン性を持つ製品が選出されています。

また、インドの子会社India Yamaha Motor Private Limitedが生産・販売するモーターサイクル「FZ25」が、インドデザインカウンシル主催のデザイン賞を受賞しました。当社製品の受賞は7年連続です。



MOTORiD



FZ25

MOTORiDとは“人とマシンが共響するパーソナルモビリティ”を目指したコンセプトモデルです。知能化と自律技術を適用した高度なバランス制御を装着、マシン自らが重心移動によって起き上がりそのまま不倒状態を保ちます。また、ユーザーを認識して歩み寄ってくるほか、ライダーアクションに呼応するような反応を見せるなど、さまざまな機能を備え、まるでパートナーのように振る舞います。

セネガルに小型浄水装置 「ヤマハグリーンウォーターシステム」10基設置

当社では外務省や経済産業省、公的機関、国際機関との連携、協力によって、新興国向けに小型浄水装置の導入を進めています。

2018年2月から、セネガル川流域に新興国向け小型浄水装置「ヤマハグリーンウォーターシステム」10基を順次設置し、11月に全基完成の予定です。本件は、アフリカへの支援策として日本政府が掲げた「1,000万人に対する安全な水へのアクセス及び衛生改善」を具現化するものです。本システムは「緩速ろ過」という自然界の水浄化機能をベースにしたシンプルな構造で、大きな電力や専門の技術者によるメンテナンスは不要です。住民による自主運営が可能な浄水システムで、飲料水不足の問題を解決し安全な水で人々の暮らしを支えます。本活動は当社WEBサイトのドキュメンタリームービー“Moving You”でご覧いただけます。



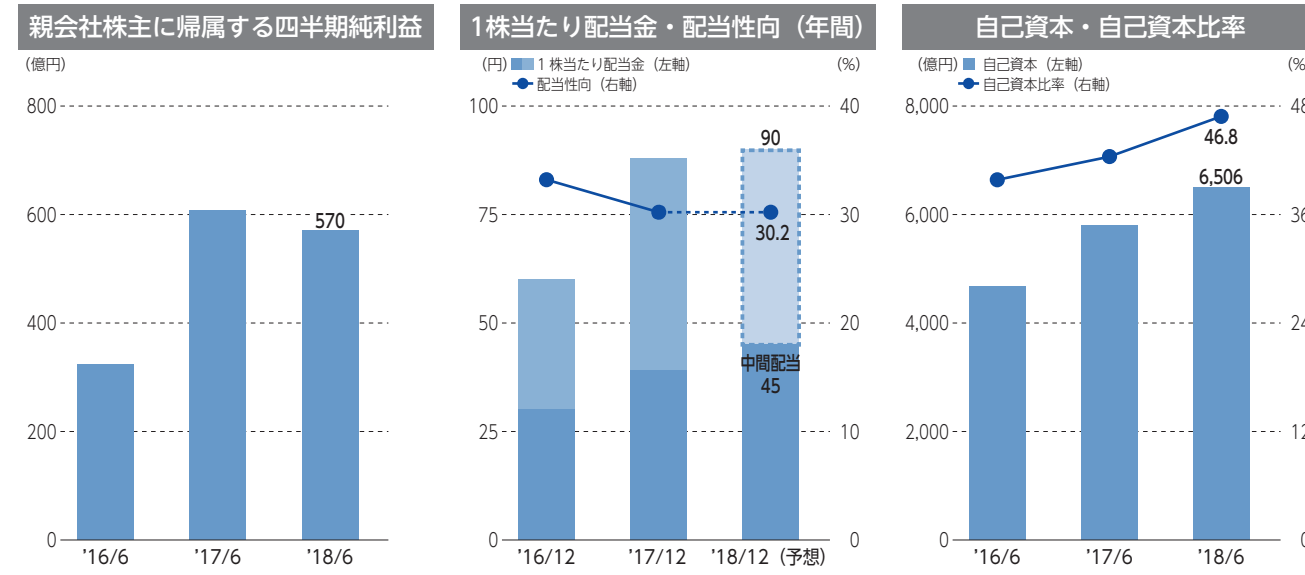
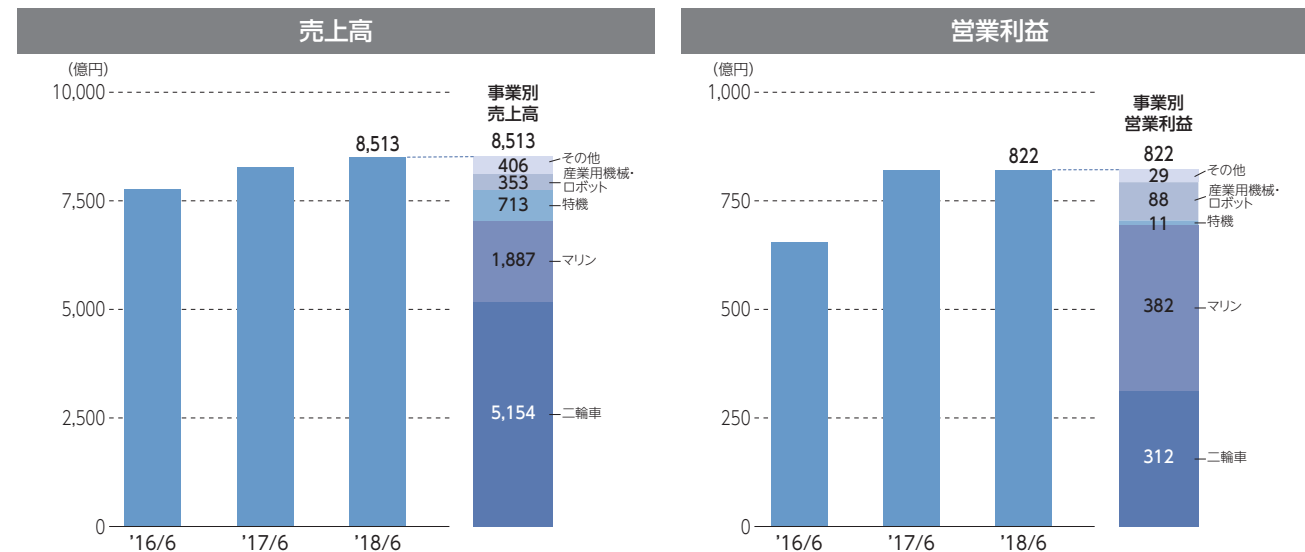
Moving You

水深4,000m級の海底探査レース “Shell Ocean Discovery XPRIZE” 最終ラウンドへ

“Shell Ocean Discovery XPRIZE”は、自律型海中ロボット（AUV）による深海での超広域高速海底マッピングを競う技術コンペティションです。海底探査に携わる8機関・企業の若き技術者・研究者で編成された“オールジャパン”体制の「Team KUROSHIO」に、当社はAUV開発への技術協力、チーム運営、PR支援などで参画しています。2015年の書類審査、2018年1月に開催された実機による技術評価試験を勝ち抜き、水深4,000mで行われる最終ラウンドに駒を進めたのは世界で9チームです。その闘いは本年11月に迫っています。



連結業績（第2四半期連結累計期間）の推移



ヤマハ発動機 IR より詳細な財務情報をご希望の方は、当社ホームページに掲載している決算短信等をご参照ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/>

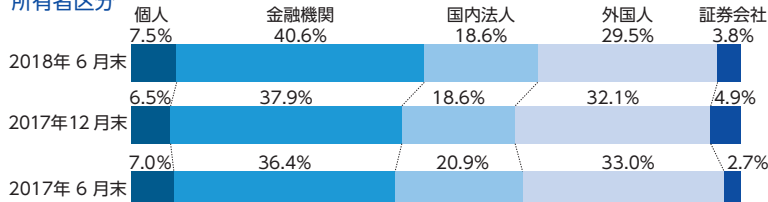


株式情報 (2018年6月30日現在)

発行可能株式総数 900,000,000株 発行済株式総数 349,914,284株

株主数 41,423名

所有者区分



(注)「個人」には自己株式が含まれています。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	35,007	10.0
ヤマハ株式会社	34,642	9.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	24,239	6.9
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	18,924	5.4
トヨタ自動車株式会社	12,500	3.6
三井物産株式会社	8,586	2.5
株式会社みずほ銀行	8,277	2.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	7,415	2.1
株式会社静岡銀行	5,649	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	5,436	1.6

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

役員 (2018年6月30日現在)

代表取締役会長	柳 弘之
代表取締役社長	日高 祥博
代表取締役	渡部 克明
取締役	加藤 敏純
取締役	山地 勝仁
取締役	島本 誠
取締役	大川 達実
社外取締役	中田 卓也
社外取締役	新美 篤志
社外取締役	玉塚 元一
社外取締役	上釜 健宏
常勤監査役	伊藤 宏二
常勤監査役	廣永 賢二
社外監査役	谷津 朋美
社外監査役	伊香賀 正彦

株主インフォメーション

事業年度	1月1日から12月31日まで
剰余金の配当の基準日	期末配当：12月31日 中間配当：6月30日
定時株主総会	3月
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中央区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
各種お問合せ先	〒168-0063
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社全国本支店

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申出先
 - 証券会社に口座を開設されている株主様
お取引先の証券会社等にお申出ください。
 - 証券会社に口座がなく、特別口座に記録されている株主様
特別口座を開設している下記の口座管理機関にお申出ください。
口座管理機関：三井住友信託銀行株式会社
- 配当金のお受取りについて
配当金の支払期間が過ぎた場合でも、支払開始の日から3年以内はお受取りいただけます。株主名簿管理人にお申出ください。支払開始の日から3年を経過した場合、当社定款の規定によりお受取りいただけませんのでご注意ください。

ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地

電話 0538-37-0134

<https://global.yamaha-motor.com/jp/>

